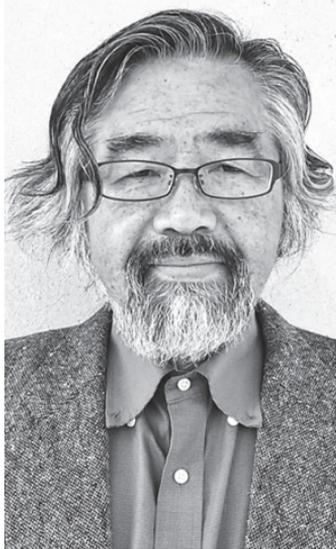


水素時代の夜明けを求めて

（社）洗楓座 代表理事
（社）efco.jp 代表
22世紀デザインリエゾン

佐藤 建吉



今年は戌年であるが、深な年廻りになる。確かに支の順では11番目。Wに1年のうちでも本州でikiによれば、「戌は、11月は紅葉の季節で滅であり、草木が枯れる。あるが、自然に彩を与え状態を表している」といえる。そしてまもなく春。すると今年は、意味さらに地球温暖化が暑い

夏をもたらす。そしてまた秋&冬。戌年も亥、子、丑、寅、…と繰り返す。大きな時間軸では、22世紀は始まったばかりで、決して晩秋でも初冬でもない。元号が替わるとしても、十二支の教えを聞きながら、持続性つくり繋がる活動をしなければならぬ。

その戌年早々、筆者と法人組織は、現在の千葉県大多喜町での事業拠点を、埼玉県春日部市に移転し活動することになった。大多喜町で行った垂直軸小型風車の開発、太陽追尾ソーラー発電の開発運用を、継続かつ拡張して行う。さらに、新規に「水素」を取り入れた風呂& Sauna、水素自動車、水素発電事業を、同市の不動産会社と隣県の水素研究所との連携協同行われる。

大多喜町は、溪谷の街であり、自然とのかかわりを四季、朝夕で実感できた。バイオマス資源の活用、気運が「日本再生」をスローガンと掲げている。

この地と近郊を対象として始めた「上総まちなか大学院」という地域活性化活動が定着してきたが、これも場所を変えて、「春日部まちなか大学院」として開設した。それは、「22世紀をデザインする」をスローガンとしているので、是非とも、再生可能エネルギー利用や卒原発推進、そして水素利用する「ひ」と「くらし」「まち」として実践するモデル地に、そしてその発信地としたい。

洗楓座とefco.jp、そして、22世紀デザインリエゾンは、新機軸で「ふるさと復権！」